

平成28年度 福井県立美方高等学校 学校評価書

項目	重点目標	具体的取り組み	成果と課題	改善策・向上策
中高一貫教育	・中高一貫教育を中心とした中高の連携をさらに深める。 ・連携生徒の学校生活の充実を図る。	① 中高一貫4校事務局会議・各教科会・研修会の開催と、各部活動顧問間の連携を通して、中高の連携をいっそう深める。	事務局員の共通理解は、昨年度の86%に比べ、92%と上昇した。また、教職員の共通理解も、88%から94%と上昇した。目標(80%以上) 事務局会議開催は10回と昨年度に比して1回減らしたが、目標回数6回を超え、中高一貫教育の方向性や具体的運営に関する打ち合わせを詳細に行うことができた。 中高一貫教育連携通信「四重奏」を発行し、両町の全小中学校に配付し回覧することができた。 昨年度同様、事務局会議以外に、下部組織である進路部会、教育課程・学力向上部会、学年連絡調整部会等での打ち合わせや担当事業を実施することができた。特に、進路部会では、遠隔授業装置を活用してTV会議を行った。 生徒指導部会については、特別な事業や部会での打ち合わせは行わなかった。 若狭町、美浜町の中高一貫教育担当者に、事務局会議に参加を願い、予算面等に関する意見をいただいた。	事務局主任を事務局長が兼ねて行ったが、手が回らず各種部会に委ねることが多かった。その結果、各委員が自主的自覚的な働きを進めることができた。ただ、全体を見渡し指示を出して、各種行事の準備等に関わる必要がある。両町の教育委員会から事務局会議に参加していただき、予算面の相談に乗っていただいた。予算については、今年度中に次年度の予算案を出さないと、補正予算を組むにしても間に合わないことがあるので注意が必要である。
	② 連携生徒の授業、部活動、学校行事への参加の充実を図る。	連携生徒の授業理解度88%(昨年度91%)、行事の取り組み満足度90%(昨年度98%)、部活動の取り組み満足度86%(昨年度94%)と、いずれも目標(80%)に達し、連携生徒が学校生活において文武両道を実践していることが分かる。ただし、いずれも昨年度より数値が下がっている点に課題がある。 進路目標を持つことができた生徒は83%と、昨年度の94%から比べて低下し、目標(85%)にも達していない。 昨年度に引き続き、高校1年連携生徒が連携中学生の英語研究発表会に参加して英語で感想を述べたり、夏季休業中に国語の課外授業で連携中学生に教えたりして、中高の連携生徒同士の交流ができた。	昨年度まで、高校3年生だけ連携生徒の人数が多く、連携クラスが2クラスあった。今年は3学年とも連携クラスは1クラスとなった。各項目の満足度数値の低下や、進路目標を持つことができた生徒の割合の低下の原因が、連携生徒の自信の無さを感じる。中高連携事業と高校での取り組みを充実させ、自信を持って中学から高校3年間の4年間を過ごさせたい。 また、人数の少ない中でも連携クラスを2クラスとして、進路実現や各種活動に自信を持って取り組めるような環境作りを検討したい。	
教育課程 学習指導	・生徒が主体となる授業を工夫し、学習意欲を高め、学力向上を図る。 ・家庭学習の充実を図る。	① 教科会を中心とした授業研究や生徒による授業評価を通して授業改善を図る。 ② 各教科、各学年と連携し、家庭学習の質と量の改善を図る。	公開授業を行ったり、教科研究会に参加したり、授業を参観したりした教員の割合は97%で、目標(80%)を大きく上回った。11月には保護者向けにも公開授業を実施した。 授業内容を「ほとんど」または「おおむね」理解できているとした生徒は85%で、昨年よりわずかながら向上し(昨年度84%)、目標(80%)は達成できた。少しずつではあるが授業改善の成果が出ている。ただし、各教科の授業内容が「あまり」理解できていない、または「ほとんど」理解できていないとした生徒はあわせて67名いる。特に「ほとんど」理解できていないとした生徒が5名から9名に増加し、2学期には欠点保持者も増加した。 各教科の課題を「ほとんど」または「おおむね」提出していると回答した生徒は94%で、昨年より2ポイント下がった。そこで夏休み明けの一斉課題回収を強化し、何らかの理由で未提出だった者にはその後完了するまで個別に指導にあたった。その結果、長期休業中課題の一斉回収では、提出率が夏休み明け、冬休み明けともに99%となりほぼ全員に近い回収率であった。一方教員が家庭学習の方法に関して必要とされる指導を「十分に」または「おおむね」しているとした割合は91%となり、昨年より6ポイント増加した。 6月と10月に行った授業外学習時間調査では、学校全体の平均で1日あたり127分(6月)、96分(10月)という結果であった。また、70%を目標とした1日90分を達成した生徒の割合は、63%(6月)、51%(10月)であった。90分達成生徒率は目標をかなり下回る結果となった。学習時間を確保できていない生徒への働きかけが今後の課題である。	入学してくる生徒の学力幅が年々広がり、授業内容が十分に理解できていない生徒もいる。各教科の学習内容をさらに点検し、絶えず授業方法の見直しを図っていく必要がある。一斉授業での集中力に課題のある生徒も散見されることから、継続的な個別指導をより強化していきたい。 また、アクティブラーニングの手法に関する研究を進め、効果的に学習内容、学習方法が提示できるよう、各教科、進路指導部等との連携を進めていきたい。また、新学習指導要領で改変される「探究的な学習」の時間では、今まで以上に地域との連携を図っていきたい。
	① 学校行事や部活動に積極的に取り組ませる。	部活動加入率は各学年とも90%を上回り、全体では97%(含む兼部)となっている。また、生徒の部活動に対する姿勢は、「積極的」または「おおむね積極的」に活動している割合が89%、保護者の部活動に対する満足度も「満足」または「おおむね満足」とする割合が88%となり、部活動に関しては、共に昨年をわずかに上回り、目標(80%)は達成できた。保護者の「満足していない」または「あまり満足していない」数値の合計が12%弱と、昨年度より低い数値となっている。これは、部活動保護者会等を利用して顧問と保護者との意志疎通が図られている成果と言える。 学校行事に関しては、「満足している」または「おおむね満足している」生徒が、87%(目標80%)と、昨年度よりもやや減少したものの、変わらず高い割合で推移しており、学校祭や生徒会行事など生徒会を中心とした行事への満足度はたいへん高いといえる。	部活動や学校行事に対する取り組みの姿勢やその満足度は、おおむね好結果が出ており、生徒・保護者ともが期待するとおりの活動ができています。部活動に対する満足度は大会等での成績だけでなく、日常の活動から得られる達成感・充実感によるところも大きい。生徒の人格形成に資するという目的を常に念頭におき、質の高い部活動が日常的に行われることを今後も目標としたい。 また、今後も各部の活動方針や活動内容に対して、保護者の理解が常に得られるよう留意したい。	
生徒指導	・容儀に関する指導を中心として、基本的生活習慣の確立を図る。 注:「容儀」礼儀作法にかかった態度やその姿のこと。身だしなみや言葉遣い、挨拶など、ルールやマナーに則った外見と振る舞いをさす。	② 定期的な容儀指導を行うとともに、時間管理の習慣作りと挨拶の励行に努めさせる。	基本的生活習慣のうち、規則正しい生活を送れているかという点について、「送っている」または「おおむね送っている」とする割合が、教職員から生徒を見た場合は92%、生徒が自分を評価した場合は84%、保護者から生徒を見た場合は68%となった(目標80%)。保護者から見た割合はやや減少した。家庭においてもさらなる時間管理意識の徹底を図る必要がある。生徒自身は84%とやや増加しており、相変わらず高い数値である。教職員から見た割合は92%と大幅に増加した。これは遅刻・早退の少なさを意識しての数字であるように思われる。今後も、遅刻や早退の数を減らす努力を続け、粘り強い取り組みを継続することは必要である。 基本的生活習慣のうち、容儀面に関しては、生徒が校則その他を「守っている」または「おおむね守っている」とする割合が、生徒98%と相変わらず高い数値であり、多くの生徒はルールを守ろうとしていることが分かる。保護者も97%と、容儀面については相変わらず高い数値である。教職員については83%と、昨年の90%から減少しており(目標80%)、容儀面に関しても、引き続き粘り強い指導を行ってきたい。	時間を守り規則正しい生活を送るという点に関して、保護者が子どもを評価したときの数値が、目標に達していない。その実態を把握し、起床・就寝・家庭学習・携帯スマホ使用の時間に留意して「自主的な時間管理」という観点で改善を呼びかけていきたい。また、教職員から生徒を評価した数値が13%増となった。『MIKATA DIARY』を使用するなど、担任や学年会の取り組みも大いに好結果を生んでいると思われる。さらなる改善に向けて、学年会や担任を通じて、規則正しい生活を送る呼びかけや指導を促したい。高校生として望ましい、各自の状況に応じた時間配分を意識させる一方で、保護者との連携も進めたい。 遅刻の回数が多い特定の生徒に対しては、生活習慣の改善を図る指導をよりきめ細かく行いたい。
	・学校行事や日々の活動を通して生徒の気持ちを理解し、仲間との絆を深めさせる。 ・生徒の悩みを受け止め、迅速で適切な対応を行う。	① 快適度アンケート等を生徒理解に役立てる。 ② 「面接週間」を生徒理解に役立てる。	「役立っている」・「おおむね役立っている」を合わせて85%の満足度が得られている。ただ、アンケートに表さない苦しみや人間関係の悩みなどを抱えている生徒もおり、アンケートに表れない心をどのように把握するかは、担任や学年団、教職員全体の取り組みにかかっている。 「役立っている」・「おおむね役立っている」を合わせて90%以上の満足度が得られている。特別時間割や45分授業など面接を実施するために多くの労力を必要とするが、直接生徒と話ができる有効な時間として職員に認知されていることがよく分かる。	生徒の心理や状況の把握をよりきめ細かく行うため、快適度アンケート等の内容や活用法をさらに検討する。 面接の有効性が認められることから、さらに面接週間が充実するよう、面接を実施している担任の意見を聞き、より効果的な面接週間を計画する。

進路指導	<p>・キャリア教育を推進し、明確な進路目標を持たせる。</p>	<p>①職業講話、進路説明会等の進路行事を通じて、職業観の育成と進路目標の明確化を図る。</p>	<p>担任のうち、「ホームの80%以上の生徒に学年に応じた進路目標を持たせることができた」と答えた割合は93%(目標80%)であった。昨年度の79%から大幅に向上した。各担任の個人面談をはじめとする指導の努力がうかがえる。生徒のうち、「明確な進路目標を持つことができた」または「明確ではないが進路目標を持つことができた」と答えた割合は全体の85%(目標85%)であった。昨年度は86%であった。保護者のうち、子どもが「明確な進路目標を持っている」または「明確ではないが進路目標を持っている」と答えた割合は全体の81%(目標85%)であった。昨年度は84%であった。</p> <p>保護者対象の進路講演会について、PTA総会後の進路別説明会や1年生保護者対象進路講演会、2年生保護者対象進学講演会はおおむね好評をいただいた。</p>	<p>生徒一人ひとりが進路目標を持てるように、校内で多くの進路行事を企画している。その際教員主導ではなく、生徒が主体的に調べたり、実際に職場体験やオープンキャンパスにでかけるような積極的な態度を育てる工夫をしていきたい。そのために総合的な学習の時間(論考)に探究的な活動を入れていきたい。また、調べ学習をするための環境整備として、進路指導部の図書の実室や、情報実習室の利用について情報科と連携をとって実施していきたい。</p> <p>また、保護者対象の進路講演会について、来年度も充実した講演会になるよう講師の選定を行いたい。</p>
	<p>・個々の進路目標に応じた確かな学力を養成する。</p>	<p>②課外等の全体指導及び推薦入試対策や2次試験対策等の個別指導を充実させる。</p>	<p>土曜学習会や夏期課外及び冬期課外について、その内容や回数が「適切」または「おおむね適切」だったと回答した教職員の割合は87%で、目標(80%)を上回った。また、このような学習会や課外に「積極的に」または「おおむね積極的に」参加したと考えた生徒の割合は96%、保護者の割合は94%で、どちらも目標(90%)を上回った。</p> <p>推薦入試や2次試験等に対する対策として、個別指導を「きめ細かく十分に」または「おおむね十分に」行ったとする教職員は97%(目標は90%)で昨年度の93%よりもさらに向上した。また、進路実現についての本校の取り組みについて、「きめ細かく十分に」または「おおむね十分に」行われていると考える3年生保護者の割合も97%(目標は90%)で、昨年の93%からさらに向上した。進路実現に対して「積極的に」または「おおむね積極的に」取り組んだ3年生の割合は98%であった(目標は90%)。</p>	<p>土曜学習会や課外等については、保護者、生徒の大多数から活動の成果について高い評価を得ることができた。ただ、部活動の大会等で生徒及び教員が参加できない場合もあり、実施日について、公欠が極力出ない時期を選んで実施していきたい。</p> <p>昨年度の反省をふまえ、今年度は志望理由書や小論文指導、面接指導の強化を図り、良い結果を残すことができた。特に国立大学の推薦入試で良い結果を残すことができた。今年出た反省点(例えば教員対象の小論文講座の実施時期をもっと早い時期にするとか、その研修に実際の添削活動を含めると良い等)をふまえ来年度さらに改善していきたい。</p> <p>私立大学一般入試の指導についても昨年度の反省を生かし、個別指導の担当教員を割り当てる改善を行った。これが良い結果につながることを期待している。</p>
保健管理 安全管理	<p>・生徒の健康管理、健康教育を推進する。</p>	<p>①保健部LTや保健委員会活動などを充実させ、健康管理意識を高める。</p>	<p>「心のLT」(SNS)、「保健部LT」(1年カップルコミュニケーション、2年デートDV、3年未来の自分)、「総合的な学習の時間(論考)」(睡眠について)、「保健だより」で心身の健康について関心が「高まった」または「おおむね高まった」とする回答が84%と昨年度と同様の値(83%)を維持することができた。しかし目標(90%)には至らなかった。</p> <p>健康管理については、健康に気をつけた生活が「常にできている」または「おおむねできている」とする回答が、生徒91%、保護者91%といずれも目標(90%)以上となった。</p>	<p>来年度も生徒の実態や社会の実情に合わせて「心のLT」の講師選定や「総合的な学習の時間(論考)」のテーマ選考を適切に行う。保健部LTについては学年会・生徒指導部・体育科と連携を密にして、事前指導を強化し、内容等をさらに充実させる。</p> <p>また、保健指導をより充実させるとともに、保健委員会活動をより活発化させ、生徒の健康管理への意識向上に努めたい。</p>
	<p>・環境美化を推進し、安全管理を徹底する。</p>	<p>②整美・保健委員会の活動や清掃活動を充実させ、勤労意欲と安全意識の向上に努める。</p>	<p>生徒の毎日の清掃活動に「積極的に取り組んだ」または「おおむね積極的に取り組んだ」とする回答は96%、目標(90%)、教職員が積極的に清掃活動に取り組むように「常に指導した」または「おおむね指導できた」とする回答は100%となり、目標(90%)を達成した。本校生徒・教職員の環境美化に対する意識や活動は高い水準を維持している。</p> <p>安全管理については、安全に気をつけた生徒が「常にできている」または「おおむねできている」とする回答が、生徒98%、保護者98%いずれも目標(90%)を達成した。また、「常に意識し点検している」教職員の割合が86%で昨年度よりやや高くなったが、今年度の目標(90%)にはとどかなかった。</p>	<p>清掃への取り組みについては高い結果が出た。これに満足せず活動をより充実させていく。特に長期休業中や出張などで担当教員が不在の時の清掃活動、ゴミの分別が十分とは言えない状態にある。全校生徒の意識を高めていきたい。</p> <p>また、安全指導、安全管理をより充実させ、生徒の安全意識の向上に努めたい。</p>
図書整備 情報管理	<p>・生徒により多くの書物を読ませ、広い視野と豊かな心を育む。</p>	<p>①書物に接する機会を増やし、貸し出し冊数の増加を図る。</p>	<p>本年度に図書館を1回以上利用した生徒は95%(目標80%)、貸出冊数は、1月末の時点で3,000冊(目標2,300冊)に達している。今年度も、国語科の授業で読書活動を取り入れたり、ホーム活動で読書LTが行われたり、学校生活の中に読書機会があることで、多くの生徒に読書習慣が根付いている。</p> <p>図書館に読みたい本が「充実している」「おおむね充実している」と回答した生徒の割合は75%(目標70%)で目標をわずかに超えた。また、教職員が、生徒に読ませたい本の購入等について「要求しやすい」「おおむね要求しやすい」と感じている割合は94%(目標80%)で目標を上回った。</p> <p>授業・LT・ST等を利用した読書指導が、「十分できた」または「必要に応じてできた」と考えている教職員の割合は85%(目標70%)で、目標を上回った。図書だより「教員のおすすめの本」の紹介を副担任が連載したことで、読書指導の機会が増えたと捉えた教員が多かった。</p> <p>本年度、新聞閲覧台をシアター前に設置し、地元紙・全国紙・英字新聞を置いている。本校生の話題や気になるニュースなどがあると、新聞を囲んでいる生徒の姿が見られようになった。</p> <p>ふるさと文学館の主催で作家中村航氏の講演会「オーサートーク」を開催した。作家の作品や読者に対する思いを聞き、小説を読むことへの関心を高めることができた。</p>	<p>読書の機会を増やすために、国語科や学年会、各教科と連携して、主体的な読書習慣を培っていきたい。今年度同様、生徒の読みたい本・生徒に読ませたい本の希望を把握し、話題の本も時期を逃さず購入し、図書だより・ディスプレイ等を活用して本のPRに努め、生徒の読書機会を増やしたい。また、学校祭・図書まつりなどのイベント企画を工夫し、生徒が来館する機会の増加を目指したい。さらにホーム活動での読書LTの持ち方を工夫し、有効な読書活動の機会としたい。</p> <p>教職員の読書指導について、より機会を増やしたい。そのため今年度同様、図書館だよりに各教員のおすすめの本の紹介を続けていきたい。</p>
	<p>・情報収集や情報提供を円滑に行い、情報発信の支援をする。</p>	<p>②ICT環境の整備・利用促進を図る。</p>	<p>授業やホーム経営、校務分掌の業務を行うためのICT環境(ハード・ソフト両面)に、「満足している」または「おおむね満足している」とする教職員の割合は79%(目標80%)で、昨年度より増加したものの目標には届かなかった。「準備の煩雑さ」に課題があり、「手軽なICT環境」を目指して、さらなる情報支援の充実が必要である。</p> <p>本年度も、手軽にICT機器を使用できる「シアター30」稼働率が高く、英語科・学年・部活動を中心に、月平均約60件の利用があった。一方、教室でのICT使用は、機材を運び入れ配線をつなぐ等手間がかかり、授業に手軽に使用できない状況である。整備が必要である。</p> <p>ホームページの更新が頻繁に行った。各部署の協力で、数多くの新鮮な情報を公開することができた。(1月末時点で新着情報37回更新)</p>	<p>ICT環境については、準備の手間を少なくし、手軽にICTを使用できるように改善する。予算の可能な範囲で、収納場所を工夫し、運びやすい・準備しやすい環境に整備し、利用を促したい。演習室をICT対応の教室にできると手軽に活用しやすい。可能かどうか関係部署と話し合っていきたい。さらに有効なICT活用例を教員間で共有していきたい。</p> <p>「シアター30」は稼働率が高く、使用希望が重なることもある。今年度は実現できなかったが、図書館をサブシアターとして使用できるような環境整備も整えていきたい。</p> <p>ホームページの更新を促すために、事前に行事を把握し、写真の提供やレイアウトの作成等、各部署の情報発信を支援して、ホームページの新鮮さを維持していきたい。</p>
開かれた学校づくり	<p>PTA活動を充実発展させ、教職員と保護者との連携を深め、生徒の健全な育成に努める。</p>	<p>①即応性のある連絡や学校の情報発信を行い、PTA関連行事や学校行事への保護者の参加数を増やす。</p>	<p>保護者懇談会(PTA総会後および1、2学期末の3回)の平均出席率は81%と目標(80%)を上回った。しかし、PTA関連行事(全体)への参加について、「参加している」の数値は73%と目標(80%)に達しなかった。PTA総会への出席率は、昨年度よりも2%増えて49%であった。</p> <p>また、PTA関係行事への満足度については、「満足できる」または「おおむね満足できる」が96%と昨年度よりも増加し、目標(80%)に達した。</p>	<p>保護者懇談会以外の行事およびPTA総会への参加については、引き続き紙面でのお知らせや緊急連絡メールの他にPTA理事から呼びかけるなどをして参加者を増やしたい。行事内容についても再度検討を重ね魅力ある内容にし参加者増加につなげたい。</p>
		<p>②広報誌「湖声」を年4回発行し、保護者の学校への関心を高める。</p>	<p>PTA広報誌『湖声』については、アンケートの質問3項目とも、目標(90%)を上回った。昨年より1%減の93%の人が「読んでいる」あるいは「時々読んでいる」と答えている。学校の現状については、「おおむねわかる」人も含めて96%の人が「わかる」と回答し、また、『湖声』を読んで、PTA活動及び学校活動に対する関心を高めることに「役立っている」または「少し役立っている」と回答している人も96%と昨年度よりも高い数値となった。これらのことから、『湖声』を読んだ人の満足度は高いと考えられる。</p>	<p>生徒の活動やPTA活動の様子が保護者に伝わるように、引き続き紙面の充実にも努め、また学校ホームページとも連動させながら学校への関心を高めていきたい。</p>